

## 造形活動を通して世界が広がる

竹内 とも子

2年生が図工で初めて個人持ちの絵の具を使う時の、緊張感とわくわくした雰囲気が、私は大好きです。慎重にパレットに赤・青・黄の絵の具を出し、特大筆にたっぷり絵の具を付け、紙の端から端まで弧を描くように線をかく。あまりに集中していて、息をしているか心配になるほどです。

黄色に赤を混ぜて、「オレンジ色だ!」。黄色に青を混ぜて、「緑になった」「黄緑だよ」「見て、見て! エメラルドグリーン」と大歓声。「赤と青がまだだ」「紫になった!」色が変化する度に、興奮気味の声が上がります。6色ほどの虹ができるのですが、色味、形、太さ、濃さ、勢いもみな違います。

その虹からイメージを広げ、白の絵の具も使って混色に挑戦しながら絵に表しました。白に赤を混ぜて「ピンク」「桃色」「桜色」、白に青を混ぜて「水色」「空色」「スカイブルー」などと言い、いろいろな色名があることに気づく機会にもなっていました。子どもたちは新しい色ができる度に、「見て見て! きれいな色!」「こんな色できた!」と友だちに见せています(図1)。

後にレオ・レオーニの『あおくんときいろちゃん』<sup>1)</sup>の絵本を読み聞かせた時、「あかくんときいろちゃんは?」「あおくんとあかちゃんも!」と、学習経験がつながっていました。

4年生は、絵の具の様々な技法で色紙をつくり、それらを切って組み合わせて絵に表します。発想の手立てとして、エリック・カールの『はらぺこあおむし』<sup>2)</sup>などの絵本を提示しました。「(絵本は)知っていたけど、どうやってかいているか考えたことなかった」と、子どもたちは絵本への新たな見方も得られたようです。

造形活動を通して、子どもたちの世界は広がっていきます。



図1: 2年『にじをわたって』



図2・3: 4年『絵の具のさんぽから』



1) レオ・レオーニ作, 藤田圭雄訳, 『あおくんときいろちゃん』, 至光社, 1967年

2) エリック・カール作, もりひさし訳, 『はらぺこあおむし』, 偕成社, 1969年

## 今回のトピック 絵本の窓から世界を見る Part2

第12号は、前回に続き「絵本の窓から世界を見る」というテーマにてPart2をお届けします。今回は創り手側として、絵本作家として活躍されている前田善志さんにお話をしました。前田さんには色いろサロン第12回にもご登壇いただき、トピックについてお話しいただく予定です。

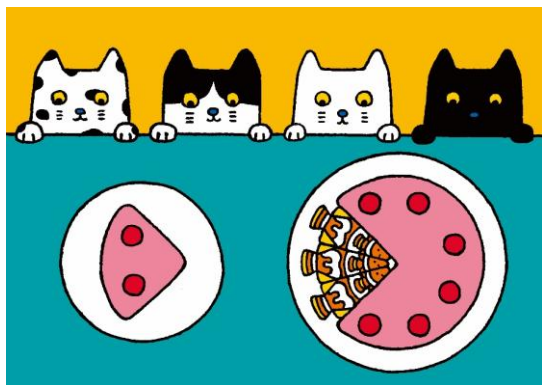
### 絵本の色に染められて

前田 善志

私の絵本では、はっきりとした色をよく使います。子どもの頃に読んだディック・ブルーナさんの『うさこちゃん』の影響です。鮮やかな色とその組み合わせは強く印象に残り、日常では出会えない色の世界が絵本にあることを教えてくれました。

色に注目して絵本を見てみると、たとえ一色に見える絵だとしても、そこには奥深い違いがあり、明るい色も暗い色も無限の表情があることがわかります。色には作者の意図が込められていて、「ここを見て！」という声に、知らず知らずのうちに導かれることもしばしばあります。感情の高まりや静けさ、危機や安堵といった空気が、色の響きとして伝わり、ページをめくるたびに感じられるのも絵本ならではの魅力です。

気づけば、服やかばん、コップなど身の回りが同じような色調で溢れていました。絵を描くときだけでなく、生活で使う色選びの感覚も、その入口は絵本だったのかもしれない——ふと、そう思うのです。絵本の色は物語とともに心に寄り添い、その人の世界を静かに染めていくのです。



『Hidden angle fish』（まえだよしゆき）  
2019年ボローニャ国際絵本原画展入選作



スケッチブックやリュック、小物たち  
気づくと好きな色で揃えてしまう



#### プロフィール

前田 善志(マエダ ヨシユキ)  
デザイナー・絵本作家。

1991年神奈川県生まれ。2019年ボローニャ国際絵本原画展入選。  
2020年絵本『さんかく おさかな かくれんぼ』（フレーベル館）を出版。  
近年は触覚を通じて誰もが楽しめる絵本「さわる絵本」の制作に注力。



## 会員リレーコラム

### 色が人生を動かすとき ～人の魅力を引き出す力に出会って～

授乳服のモーハウスで商品企画を担当していた頃、色がイメージや売れ行きに与える影響を実感しました。モデルが着る色ひとつで印象も数字も変わる...その経験から、「パーソナルカラー」が人生を前向きにする力を持つことを学びました。

当時のスタッフは絵本作家となり、「みんな いろ だしてる?」という紙芝居を制作（えもりなな 作・絵）。虹の7色が登場し、ある色が自分の場所を見失いながらも仲間に受け入れられていく物語です。

身近な大人がもっと自由に豊かな色をまとうことは、子どもはもちろん、周囲の色彩感覚や感情にも影響を与えます。

生き方をしなやかに、そして自由に。色にはその力があると信じています。



ニキ・ド・サンファル《ナナ》をモチーフにした授乳Tシャツ。授乳期も、自分らしさを大切にできる一着です。



紙芝居『みんな いろ だしてる?』より。自分の「いろ」を探す物語が、ここから始まります。朗読アーカイブはInstagramにて。



紙芝居のラスト。色たちのメッセージに、何を感じられるでしょうか。

井上 千香子（イノウエ チカコ）  
CAD'S f-color Lab 主宰

## 第11回色いろサロンを開催しました

2025年7月25日（金）に、第11回となる『色いろサロン』を開催しました。「絵本の窓から世界を見る」をテーマとし、穴澤秀隆さんにお話いただきました。

<参加者からのご感想>（一部抜粋）

『読んだことのある絵本、全く知らなかった絵本など、大変たくさんの絵本をご紹介いただいて、先生の声のトーンが聞きやすく、ワクワク楽しく拝聴させていただきました。』

『貴重な話題と多種多様なスライドから、絵本の今日までの流れや魅力を俯瞰することができました。登壇者の語り口もわかりやすくユニークで、服装から今日のテーマを意識したお洒落なもので感激でした。』

第12回は10月31日（金）20時より開催予定です。たくさんのご参加、お待ちしております。

## オンラインセッション 第12回『色いろサロン』のご案内

Color Circleで取り上げたトピックに関連するオンラインセッション『色いろサロン』の第12回を開催いたします。今回はテーマを『絵本の窓から世界を見る』として、執筆者の方に話題提供をしていただきます。

『色いろサロン』では、登壇者の方へのご質問はもちろん、参加者同士で意見交換を行い、会員同士の交流ができる場にしていきたいと考えています。

視聴のみのご参加も大歓迎です。会員の皆様、並びに本研究会にご関心のある方々、奮ってご参加ください。

●日時：2025 年 10月 31日（金） 20：00～21：00

●方法：ZOOM によるリアルタイム配信

●オンライントークの会の流れ

・ Color Circle vol.12のトピック執筆者によるお話

前田善志さん

名取初穂さん（司会）

・ トピックに関する質疑応答

・ 参加者全体、またはグループに分かれての意見交換

●参加費：

本研究会会員の方・・・無料

一般の方・・・1,000円

非会員のうち、学生で会員の紹介がある場合は無料

参加申込と同時にご入会いただいた場合は無料

●参加費のお振込先：

「郵便振替」「銀行振込」のいずれかよりお願いいたします。

郵便振替：00150-6-136277 色彩教育研究会

銀行振込：ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座 136277 色彩教育研究会

●お申し込み方法：以下のGoogle フォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/QLrB3tCUsYgAFdA19>

**参加申込・参加費納入期限：2025 年 10 月 29 日（水）**

⇒10月30日（木）に ZOOM の URL をお送りいたします。

※sikisaikyoiku@gmail.comからのメールが迷惑メールに分類されないよう、  
設定をお願いいたします。

※10月30日中にメールが届かない場合は、恐れ入りますが、事務局まで  
ご連絡をお願いいたします。

★こんなことを聞きたい、質問したい！等のご要望は、ぜひお申込フォームに  
記載をお願いいたします！

お問い合わせ先：日本色彩教育研究会事務局（[sikisaikyoiku@gmail.com](mailto:sikisaikyoiku@gmail.com)）



日本色彩教育研究会HP <http://shikikyo.jp/index.html>

発行人：茂木一司

製作：Color Circle編集委員会

（名取初穂、島田由紀子、手塚千尋、中島千絵、宮野周、大内啓子、佐々木三公子）

